

～あなたの思いやりが 患者さんのいのちを救います～

骨髄移植ドナー

町では、骨髄などを提供した人の経済的負担を軽減し、ドナー登録者の増加や骨髄などの移植を推進するため、骨髄・末梢血幹細胞の提供をした人に助成金を交付しています。

■知っていますか？骨髄移植
私たちの体内を循環する血液は、全身に酸素や栄養素を運んだり、老廃物を体から排除したりするなど生きていくために必要な役割があります。この血液を作っているのが、骨の内部にある「骨髄」。また骨髄中には、赤血球や白血球、血小板といった血液細胞の多くなる「造血幹細胞」が多数含まれています。この造血幹細胞に異常が起これば、正常な血液が造れなくなる病気や白血病などの血液疾患。こうした疾患の治療法の一つとして「骨髄移植」が

■誰かの命を救う一助に
赤血球にA・B・O・ABの種類があるのと同様に、白血球にも型があります。その組み合わせは数万通り。造血幹細胞移植を行うには、その型が適合している必要があります。これを患者さんが独自で探すのは至難の業です。そこで、適合するドナーが見つかるようにするために行われているのが、骨髄バンク事業。あなたの骨髄が、誰かの命を救うことになるかもしれません。ドナー登録をしてみませんか。

骨髄移植ドナー助成金の交付

▶助成対象者【(公財)日本骨髄バンク(以下、バンク)で骨髄などを提供した人で次の全てに該当する人】

- ①骨髄などの提供日に町内に住所を有している
 - ②勤務先にドナー休暇制度がない
 - ③他の自治体などから助成金などの交付を受けていない
 - ④町税の滞納がない
- ※最終同意後に提供が中止になった人も対象になります。

▶助成内容 骨髄・末梢血幹細胞の提供に係る通院や入院または面談に要した日数×2万円(上限14万円)

▶申請方法 提供を行った日または提供最終同意日から60日以内に必要書類を保健センターに提出する

▶申請・問合せ 保健センター ☎88-5533



ドナー登録についての詳しい情報は

(公財)日本骨髄バンクのホームページをご確認ください
<http://www.jmdp.or.jp/reg/>



～あしたのママへ、悩めるあなたを応援します～

特定不妊治療・不育症治療

町では、特定不妊治療・不育症治療を受けた夫婦の経済的な負担を軽減するために、治療費の一部助成を実施しています。本年度の申請期限は、平成30年3月30日(金)までです。早めの申請をお願いします。

■不妊症のコト
不妊症は、健康な男女のカップルが妊娠を希望し、避妊をせずに性生活を営んで2年間を過ぎても妊娠しない場合を言いますが、臨床的には1年間営んでも妊娠しない場合、不妊症とされています。それぞれの夫婦の事情によっても判断が異なりますので、まずは専門の医師に相談することが大切です。

■不育症のコト
一般的に、妊娠はするものの流産や死産、新生児死亡を2回以上繰り返す、赤ちゃんを持っていない場合を不育症と言います。

厚生労働省不育症研究班の調査によれば、日本では妊娠した女性の40%が生産に流産を経験するとされています。不育症の原因はさまざまありますが、流産を繰り返す人は検査や治療によって85%が無事に出産にたどりつくことも分かっています。もしかして、と思ったら専門の医師に相談してみてください。

詳しい情報は下記ホームページでご確認ください

■不妊症について <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/000047346.html/>

■不育症について <http://fuiku.jp/>

(不妊症について) QRコード



(不育症について) QRコード



脳は人間の活動をコントロールしている司令塔です。認知症とは、さまざまな原因で脳の細胞が損傷を受けたり、働きが悪くなったりすることで認知機能が低下し、日常生活に支障が出る状態をいいます。認知症を引き起こす病気のうち最も多いのは、細胞がゆっくりと死んで脳が委縮する「変性疾患」という病気です。アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症などがそれにあたります。

少しだけ Close Up 認知症のお話

【周辺症状】
中核症状が原因で起きた周囲との関わり方、環境、自身の性格などが関係して引き起こされる症状です。

- ①妄想・幻覚・徘徊
- ②攻撃的な言動
- ③入浴、更衣、排泄、食事の混乱
- ④自信の喪失

脳血管性認知症 脳血管の障害による

高血圧や糖尿病などによる脳梗塞や脳出血が原因。原因となった脳血管障害の治療と再発予防、薬物療法が一般的な治療法

レビー小体型認知症 パーキンソン症状と関連

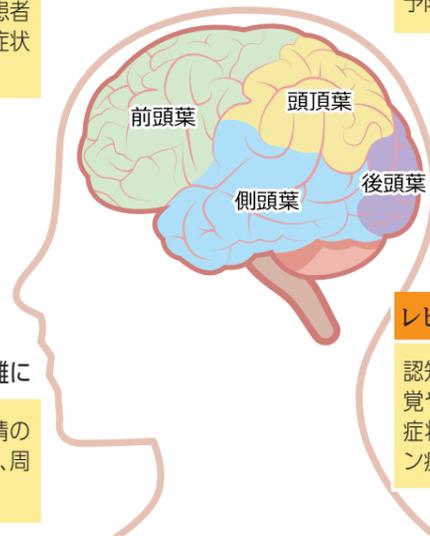
認知症とパーキンソン症状を主症状とする幻覚や錯覚が現れやすい。転倒にも注意が必要。症状に合わせた薬を服用する他、パーキンソン症状に対するリハビリを行う

【中核症状】
記憶や判断力、時間や場所の認識など、認知機能が損なわれる認知症の人なら誰でも現れる症状です。

- ①記憶障害…ものごとを思い出せない
- ②見当識障害…時間や場所が分からなくなる
- ③理解・判断力障害…理解力、判断力、思考力の低下
- ④実効機能障害…計画を立てて段取りできなくなる

アルツハイマー型認知症 穏やかに進行

脳に特殊なタンパク質がたまり、神経細胞が減って起こる。記憶障害が著しく、認知症患者の半数以上を占める。初期段階では、薬で症状の進行を遅らせることができる



前頭側頭型認知症 理性の制御が困難に

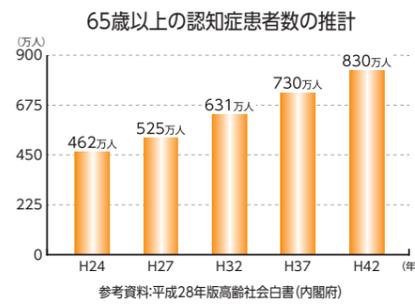
脳の前頭前野を中心に傷つき、理性や感情のコントロールが難しくなる。特徴を理解し、周囲と良い関係を築けるよう環境を整える

加齢によるもの忘れと認知症の記憶障害との違い

チェック	加齢によるもの忘れ	違い	認知症の記憶障害	チェック
	経験した一部を忘れる	↔	経験したこと全体を忘れる	
	物の置き場所を思い出せないことがある	↔	置き忘れ・紛失が頻繁になる	
	何を食べたか思い出せない	↔	食べたこと自体を忘れていく	
	約束をすっかり忘れてしまった	↔	約束したこと自体を忘れていく	
	もの覚えが悪くなったように感じる	↔	数分前の記憶が残らない	
	曜日や日付を間違えることがある	↔	月や季節を間違えることがある	

邑 楽町の65歳以上の人口は7、837人（平成29年3月31日現在）で、高齢化率は29.2%という超高齢社会を迎えています。認知症の発症率は高齢になるほど高くなつていて、認知症に関する相談も増えていきます。

内閣府の平成28年版高齢社会白書によると、65歳以上の高齢者の認知症患者数は、平成24年で462万人（約7人に1人）でした。それが平成37年には730万人（約5人に1人）になると予想されています。



少しだけ Close Up 認知症のお話

認知症の人や家族を支える仕組みを活用しよう！

新オレンジプラン



新オレンジプランは、厚生労働省などが策定した「認知症施策推進総合戦略」認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けてのことで、認知症高齢者の日常生活を支えていくための基盤です。認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、まち全体で支えていく支援の輪が必要です。▼問合先 役場健康福祉課 47-5021

認知症ケアパス

認知症ケアパスは、認知症への理解を広め、自分や家族が認知症になったときに、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受ければいいのかの流れを標準的に示したものです。邑楽館林の1市5町では、共同で認知症ケアパスとして「認知症ガイドブック」を作成し、配布しています。

町地域包括支援センター

社会福祉士、保健師、主任ケアマネジャーなどが連携して高齢者のさまざまな相談に応じ、支援につなげます。

徘徊高齢者等探索システム

認知症高齢者を介護する家族などの負担軽減を目的に、GPS端末による徘徊探知機器を貸し出します。申し込みは役場健康福祉課へ。
▶対象 町内在住でおおむね65歳以上の認知症高齢者などを介護する人
▶費用 月額1,000円

特別なことをする人ではありません 認知症サポーター

認知症サポーターが身に付けるオレンジリングは「認知症の人を応援します」という意思を示す目印です。認知症サポーターは、認知症を正しく理解し、認知症の本人や家族を支え、正しく接してくれる人たちです。



認知症地域支援推進員

町地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置しました。推進員は、医療機関や介護サービスと地域の支援機関が連携していくための支援や、認知症の人とその家族への相談支援を行います。

認知症初期集中支援チームがサポート

認知症の早期診断・早期対応のためにチームが家庭を訪問し、初期の支援を集約的にを行い、自立生活をサポートします。
▶対象 町内在住で在宅生活をしている40歳以上で、次のいずれかに該当する人
①認知症の診断を受けていない
②医療サービスや介護サービスを利用していない、または中断している

認知症サポーター養成講座

認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族をできる範囲で手助けする認知症サポーターを養成するための講座を開催しています。

▶期日 1月16日(火)
▶時間 午後1時30分～3時
▶会場 役場3階大会議室
▶申込・問合先 町地域包括支援センター(役場健康福祉課内) 80-9300

認 知症の診断は初期ほど難しく、専門の医療機関での受診・検査が必要となります。

認知症の早期発見、早期受診、早期治療はその後の認知症の人の生活を左右する非常に重要なことです。認知症はどうせ治らないから医療機関にかかっても仕方ないという誤った考え方は改めましょう。薬や身体活動を高めるリハビリで治療したり、症状の進行を遅らせたりすることもできるようになっていきます。

認 知症の予防には、脳の活性化を図ること「どう刺激ある日常を送るか」が重要です。

外に出て人と会い、友人や家族と笑って楽しく過ごしましょう。人の役に立つことを日課にして、たくさんほめてもらいましょう。

運動を継続的に行い、習慣化させることも大変効果的です。

認 知症であることを本人も家族も受け入れるまでは、さまざまな苦悩や葛藤があるといえます。認知症の人は何も分かっていないと思われがちですが、実は周囲が気付く前から本人は何かがおかしいと気づき、その不安から苦しんでいる場合が多いといえます。

まずは、家族や周囲の人が認知症について学び、理解することが大切です。認知症を正しく理解する方法の一つに「認知症サポーター養成講座」の受講があります。認知症に関する正しい知識と理解を身に付けた「認知症サポーター」を養成する講座です。日常生活の中で認知症の人と出会ったときに、その人の尊厳を損なうことなく、適切な対応をすることで、認知症の人と認知症の人を介護する家族を見守り、応援者となることが期待されています。まず、認知症のことを学んでみませんか。

認 知症の人への援助に、認知症を理解し、さりげなく援助できる対応力が必要です。交通機関や店などに、温かく見守り適切な援助をしてくれる人がいれば、外出もでき、自分でやれることも増えるでしょう。

対応のポイントとして「驚かせない」「急がせない」「自尊心を傷つけない」の3つの「ない」があります。まず見守り、相手に視線を合わせ、やさしい口調で声を掛けましょう。そして、よく話を聞いてあげましょう。

誰 でも自分や家族が認知症になる可能性がさまざまであるのと同じように、認知症の人の心情もさまざまです。

「認知症の人がいる」のではなく、その人が認知症になっただけ。地域で理解して、支え合うことが大切です。



オレンジカフェ「まがたまの里」

誰もが気軽に話せる憩いの場

認知症の人と家族、地域住民、専門職、認知症に関心がある人など、誰もが気軽に参加でき、交流や相談ができる場として「オレンジカフェ(認知症カフェ)」が始まります。お茶やお菓子を食べながら情報交換やレクリエーションを行い、リフレッシュをしてみませんか。

- ▶期日 1月17日(水)、2月21日(水)、3月14日(水)
- ▶時間 午後2時～3時30分
- ▶会場 特別養護老人ホームまがたまの里 地域交流ホール
- ▶参加費 100円(飲食代など)

問合先 役場健康福祉課 47-5021 町地域包括支援センター 80-9300



特別養護老人ホーム まがたまの里
邑楽町大字狸塚1040番地1
89-0011 (午前9時～午後5時30分)